

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ		ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	大学生
	キュマイラ					
オプション			年齢	21	性別	男
覚醒	憤怒	衝動	殺戮	初期侵食率	35 %	
出自	貧乏/母親	経験	一匹狼/友人	邂逅	腐れ縁/春日恭二	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	33
肉体	6	0	0			6	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	0	1	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:	2		情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
素手(破壊の爪)	白兵	6r	1	4		素手攻撃力:-5 + 破壊の爪効果:攻撃力+[LV+8]
素手(破壊の爪) 100%	白兵	6r	1	5		素手攻撃力:-5 + 破壊の爪効果:攻撃力+[LV+8]
①②④⑥⑦	白兵	10r	1	10		C値:-2
①②④⑤⑥⑦ 80%	白兵	10r	1	15		C値:-2

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
剛身獣化	0	6	0	0	通常時:6 / 侵蝕率100%時:9

所持品	
コネ:警察官	
コネ:情報屋	
コネ:手配師	
応急手当キット	
Dロイス効果	

合計装甲:	6	合計回避:	0
-------	---	-------	---

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
野獣本能	P	N		
記憶の中の女	P 幸福感	N 不快感		
施設のガキ共	P 同情	N 無関心		
宮本 詩織	P 庇護	N 悔悟		
胡桃 鈴晴	P 友情	N 無関心		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	6	残り財産P:	
--------	---	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
完全獣化	2	6	マイナ	至近	自身	自動	-	
効果:	【肉体】の判定が+:[LV+2]							
ハンティングスタイル	1	1	マイナ	至近	自身	自動	-	
効果:	戦闘移動 ※1シ-1LV回							
剛身獣化	2	6	マイナ	至近	自身	自動	ピリア	
効果:	攻撃力(素手)+[LV*2]/装甲値+[LV*3]							
破壊の爪	1	3	マイナ	至近	自身	自動	-	
効果:	素手データ変更 ※武器欄参照							
フルパワーアタック	1	4	セットアップ	至近	自身	自動	80%	
効果:	白兵攻撃力:[LV*5]/行動値:0							
獣の力	1	2	Xジャー	武器	単体	白兵	-	
効果:	白兵攻撃力:[LV*2]							
コンセントレイト	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果:	判定のC値:-LV(下限値7)							
獣の直感	1	-	Xジャー	至近	自身	自動	-	
効果:	天候の変化や地震の発生等を予測する。							
体型維持	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	肉体を操作し、体型を維持する。							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

体格の良いピュアブリードの男性。
シンドロームはキュマイラ。所属組織はUGN。
レネゲイドウィルスが活性化したのは今からおよそ三年前、それ以前はごく普通...とは言えないかもしれないが人並みに近い生活を送っていた。

とは言え、過去の思い出はあまり恵まれたものではない。
父親は生まれる前に事故により他界。母親は女手一つで鋼牙を育てようとしたものの、年月を重ねるうちに心身共に変調を来たしていった。
分相応に幸福ではあるがいつ限界を迎えるかも分からない生活の中「このままでは我が子に何をしようか分からない」と恐れを抱いた母の手により、奇しくも7度七歳の誕生日に施設へと預けられる事となる。

心優しい施設の職員や自分と似た境遇の子供に囲まれた日々でも、鋼牙の傷が癒える事は無かった。
「どうせいつか自分の前から居なくなってしまうのなら、初めから関わりを持つ必要は無い」
母が残っていた最後の思い出は彼の心に深い傷を、そして生きていく上で根底にあるべき思想へと深く影響を与えた。
詩織と出会った事である程度他者に心を許す事は出来るようになったものの、一度築かれたものはそう易々と砕かれる事は無い。

余談だが、UGNに所属する際に「ブラックドッグ」で登録しようとしたが、既存のシンドローム名と重複しているとの理由で却下された為にブラックドッグのシンドロームに対して若干逆恨みしているらしい。